

2019 年度合志市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

合志市では、恵まれた気象条件を生かして多様な農業生産が展開され、特に畜産・施設園芸などの施設型農業では規模拡大や高品質化が進み、他産業並みの所得を挙げている優れた農業経営者も多い。また、畜産業が盛んであるため、畜産の飼料となるWCS等の飼料用作物の転作作物の作付が多い状況となっている。

しかし、担い手(※)の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少に加え、景気停滞による農産物価格の低迷など多くの課題を抱えており、環境変化に対応した新たな農業の展開が求められている。

※担い手：(個人) 認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織の構成員、水田経営面積が1ha以上を有するもの

(組織体) 既に「水田経営所得安定対策」の要件を満たしている経営体(経営面積20ha以上の集落型経営体・5年以内に法人化を目指す共同販売経理化された集落型経営体)、「水田経営所得安定対策」の要件は満たさないが水田農業を担う営農組織(上記に該当しない営農組織及び法人)

2 作物ごとの取組方針等

合志市内の約860ha(不作付地を含む)の交付対象水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。また、二毛作助成や耕蓄連携(わら利用、資源循環)の取組を推進し、農業所得の増加と生産性向上を図る。

(1) 主食用米

主食用米の作付面積について、需要の減少による生産数量及び単価下落により、2019度は10ha程減少する見込みだが、農作業受託の推進や省力栽培技術の普及により生産量の維持を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の減少が見込まれる中、転作作物の中心作物として位置づけ、産地交付金を活用し、多収品種の導入、団地化、わら利用への取組等を推進するとともに、担い手への作付け集約により、農業者所得の向上を図り、主食用米の減少分の作付拡大を図る。

イ 米粉用米

多様化する消費者ニーズに対応するため、団地化等の効率的生産を推進しながら需要に応じた作付に取組む。

ウ WCS 用稲

畜産が盛んな当市において、単収の向上や品質の改善、生産コストの低減に努め、耕畜連携等を活かし、生産拡大を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆は播種及び収穫期の天候に大きく影響を受ける作物のため、栽培面積が減少傾向にある。しかし、大型機械の導入、カントリーエレベーターの活用により省力化を図るとともに肥培管理の徹底に努め、品質の向上及び生産量の増加を目指す。

特に大豆については、産地交付金を活用した担い手の作付拡大や団地化等へ取組み農業者所得の向上と作付面積の維持・拡大を図る。

また、当市は畜産が盛んなため飼料作物の需要が多く、耕作放棄地の発生防止等に非常に大きな役割を果たしており、今後も耕畜連携を推進していく。

(4) そば、なたね

転作作物の一つとして栽培され、高齢者でも栽培しやすい作物で定着化してきており、産地交付金を活用して生産量を安定させるための排水対策等を施し、また二毛作の作付を支援しながら作付面積の増加を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

西瓜が県の産地指定を受けており、集出荷施設の整備により販売力が強化され、生産量の増加が見込まれる。また、その他品目でも、物産館等での販売により農家所得向上に繋げる。

このようなことから、これまでと同様、産地交付金において、野菜、花き・花木、その他等への支援を行いながら、作付面積の維持・拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	296.39ha 1,532.3t	296.39ha 1,532.3t	296.39ha 1,532.3t
飼料用米	34.96	34	33
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	181.67	181	181
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	176.46	173	170
大豆	55.23	53	51
飼料作物	324.43	55	55
そば	6.53	6	6
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	102.63	102.3	102.3
・野菜	73.97	74	74
・花き	2.12	2	2
・雑穀	0.27	0.3	0.3
・その他	26.27	26	26

※主食用米の目標値（2019、2020 年度）において使用した単収は

517kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績） 2018年度	目標値 2020年度
1	飼料用米 （基幹作）	担い手加算 （飼料用米）（基幹）	担い手の飼料用米 作付面積	34.3ha	37ha
			多収品種の導入 割合	63%	62%
2	飼料用米 （基幹作）	わら利用の取組 （耕畜連携・基幹）	わら利用の取組 面積	21ha	24.5ha
			わら利用の取組 割合	61.3%	69%
3・4	WCS用稲 飼料作物 （耕畜連携： 基幹・二毛作）	資源循環の取組 （耕畜連携・基幹・ 二毛作）	資源循環の取組 面積	37.64ha	40.8ha
			資源循環の取組 割合	13%	14%
5	大豆・麦 （基幹作）	担い手加算 （大豆・麦） （基幹）	担い手の大豆 作付面積	57ha	57ha
			担い手の大豆 収量	109,788kg	129,895kg
			担い手の麦 作付面積	2.1ha	3.3ha
			担い手の麦 収量	536,154kg	755,360kg
6	米粉用米・ 飼料用米・大豆 （基幹作）	団地化加算 （基幹）	団地化の取組面積	39ha	44.6ha
			団地化の取組割合	43.3%	49%
7	野菜、花き、雑穀、 その他作物 （基幹作）	地域振興作物助成 （基幹）	地域振興作物の 作付面積	101.7ha	108.5ha
8	麦・大豆・飼料作 物・そば・なたね （二毛作）	二毛作助成 （二毛作）	取組面積	418.2ha	(394ha) 422ha
			水田利用率	139%	(138%) 141%
9	野菜、花き・花木、 果樹、（雑穀、その 他）飼料用とうも ろこし（基幹作）	高収益作物等拡大 加算（基幹作）	作付面積拡大 野菜・果樹等	102.64ha	104ha（2021年度）
			作付面積拡大 飼料用とうもろこし	86.84ha	88ha（2021年度）

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）